





挨 拶

新潟県立村上高等学校 尾﨑 克博

同窓会長

果たしたいと存じます。

たる実績もなく三年目となりました。これま 微力尽くす覚悟で務めてまいりましたが、最 ました。この間、同窓会、母校発展のために 理解とご協力を賜り感謝申し上げます。 で支えてくださいました皆様のご指導ご支援 に会長に就任し、三年の任期の最終年となり 慶び申し上げます。 また、日頃より同窓会活動に対する深いご 皆様のご選任を得て、平成二十七年十月 会員の皆様にはますますご清祥のこととお

業して五十年、友も我も皆古希を迎えよう き進んでいた時代でもありました。村高を卒 開通するなど、今となっては懐かしい戦後の が行われ、東海道新幹線や首都高速道路が 超マンモス生徒数での授業ごとの教室移動、 としております。しかし、当時の木造校舎、 日本の原風景は一変し、日本が経済成長に突 送っていた時です。前年に東京オリンピック にかけてであり、団塊の世代が高校生活を私の村高時代は昭和四十年から四十三年 会の存在の有り難さを実感しているところで は深く変わりなく続いています。改めて同窓 ていますが、その御姿は今も心に刻まれてい えております。当時の多くの先生は他界され 個性豊かな先生の授業風景などはっきりと覚 、先輩諸氏、その時代の友との絆

新 月 宗 立 村 上 高 等 学 校 同 窓 会 TEL (0254) 53-2779 FAX(0254) 53-2779 ホームページ http://www.murakou.com/ 印 刷 印刷株式

編集·発行 新潟県村上市飯野三丁目 16番4号 奨学会館内 新潟県立

68

も熱き思いで「豊栄登る…、堅忍不抜の訓あ

して同窓群れ集い相歓談し、いつでもどこで

同窓は心の糸で結ばれている。

あります。

やはり、

ります。会長としてこのような同窓会をさら の絆に過ぎませんが、癒しや喜びの場でもあ り」を歌う。これが同窓会です。同窓は一つ

に発展させ、奨学会とも協力し合い、

会員皆

第

(20回生) 様の一層の親睦を図ってまいります。 支部のネットワークの結び目としての役割を 存在しているものと想われます。多くの会員、 本部では掌握はしていませんが職域同窓会も 窓会支部は九支部あります。これ以外にも 一万五千人、生存会員は約二万人、さらに同 明治以来の会員数は物故者を含めて約

が同窓会の使命です。 校の歴史と伝統を発展させ、次の世代に伝え 県北の伝統校を力強く支援してまいります。 実践しております。また数多くの精鋭を輩 質実剛健、堅忍不抜の校是を継承し立派に ていく、「来たるを続けて遠きに致す」こと 出し続ける誇り得る母校です。同窓会として 明治から脈々と続いてきた百十八年の母 村上高等学校在校生は現在も文武両道、

からお願い申し上げる次第です。 に対するお力添え、ご支援を賜りますよう心 皆様に対し、今後とも同窓会そして母校

に対しまして深く感謝申し上げます。

笑顔で語り合う機会です。皆さま多数のごます。年に一度の総会は先輩、後輩、同期と 出席を心からお待ち申し上げております。 今年の総会は十月二十七日出に開催致し

飛躍 向 け、 村高生 新潟県立村上高等学校 が挑戦

ĺ

学校長

関矢

和彦

めでとうございます。同窓会の皆様方には、 日頃より本校へ多大なる御支援、 「同窓の訪れ」第六八号の発行、

> とを嬉しく思っております。 上によりよい学校づくりに邁進できますこ 高校へ赴任して三年目を迎え、これまで以 心から感謝申し上げます。 私も村上

羽ばたき挑戦する人間を育て、 学力・体力・教養をたっぷり蓄え、世界に ジキャラクター」入りの『学校案内』を作 出したいと考えています。 成しました。新鮮で元気な「鮭」のように、 年から、村上の「鮭」にあやかり「村高イメー 五百二十一名が元気に頑張っています。 が経過して、現在全校で十三学級、 少子化が進み、 四学級募集となり二 社会に送り 生年年 昨

ものでもあります。本校の学びで、探究す もなり、今後の予測不可能な時代を生き抜 ています。 会で活躍する基礎力を付けさせたいと思っ る力・考える力・表現する力を育成し、 き、幸せな人生を送るために必要不可欠な する「大学入試共通テスト」への対応策と 推進しています。これは、 るくする「むらかみらい」プロジェクトを 会に貢献する人材育成と、村上の未来を明 現在「村高イヨボヤプラン」構想の下、 な学校モデルの構築事業」の成果を生かし、 や文科省「首長部局等との協働による新た これまでの、県「ハブ・スクール事業 現一年生が受験 社 社

動を行います。特に英語の授業改善を中心に変更し、十二月には現地高校生と交流活 年創立百十八年を迎えた本校では、二年後 の記念事業の先取りとして、 村上の魅力をPRする予定です。また、今 ション能力育成に力を入れていますが、 に、グローバル化に対応したコミュニケー 子黒板二台を御寄贈いただきました。これ 層深化いたします。 上り素リe・とこった。この資源・産業を『えはがき』にし、郷土の資源・産業を『えはがき』にし、郷土・シーラで見たりを入れていますが、村 さて、昨年度から二年次修学旅行を台湾 本校のICT(情報通信技術) 同窓会から電 教育も

する後輩に熱い声援をお願いします 是非御覧いただき、挑戦を続け未来へ飛躍 んにちは村上高校です!」で紹介中です。 結びに、日々の活動の様子を、HP

御協力を 誠にお

いいですが、

回ですから当番幹

ながら七十数名に留まったと思います。

メールにライン。残念

般参加者年として参加するのは気楽で

百人は集めなければなりません。

往復は

者を集めるには少なくとも二十九回生を

私たちが副幹事で行った総会では三五〇

十九回生が当番幹事、

記憶はあいまい

者を集めろという命令。

同窓会の役員会からは三百人以上の参加

会総会への各クラスの参加者の確認と更

した。しかしながら、

議題は主に、同窓

との担当が集まり相談しました。

まるで

かもしれません。

四十年ぶりにクラスご

の理系の同級生はなかなかいません。

上岩船には理系の学生の職場は少ないの

が地元に残っているのですが、

奨学会館に集められました。 地元に残る連絡の取りやすい

組から

たち二十九回生でした。全七クラスから

平成二十九年の同窓会の当番幹事は私



当番幹事は生涯 度



近

良 (29 回生) 平

平成30年度

なつかしい顔の再会に旧交を温めましょう!

0月27日生

場所 瀬波温泉 一 夕映之の宿 沙 美 打



TEL 0254-53-5858

◆受付午後3時30分~

◆ 役員会 午後4時~

懇親会

♦ 中後5時30分~

♦ 会費 5.000円

※バスは懇親会終了後村上駅まで運行します

総会

◇開会 午後 4 時 40分~

◇内容(29年度 事業・会計報告)

30年度 事業・会計審議

懐かしい顔が待っていますよ!

宏(30回生) 伴田

時の経つのは早いもので、いよいよ当番幹事の年になりました。村高 奨学会の役員を務めている関係で、10年ほど前から総会・懇親会に出 席しております。最初の頃は半ば義務的に思っていましたが、今では、 200 名以上もの卒業生が一堂に会し、恩師・先輩・後輩と、世代を超 えて懐かしい顔に出会えるこの日を心から楽しみにしています。

毎年先輩方が魅せてくれるアイデア溢れる演出や趣向を凝らしたアト ラクションの数々。しかし、それを観ながら「自分たちの時は何をしよ うか」とプレッシャーは増すばかり。なんとか知恵を絞って、皆さんに 楽しんでいただけるような企画を練りたいと思います。



今回当番幹事を担当する30回生一同、皆さんにお会いすることを楽しみにしております。

理

長渡河齋八島田岡菅伊大飯石本野山大平丹石奥圓冨鈴八小木佐永矢小西関遠瀬尾 川 辺 面 藤 木 田 中 田 原 藤 滝 沼 栗 間 口 本 滝 山 川 村 山 樫 木 後 川 瀬 藤 田 部 田 村 矢 山 賀 崎 和秀弘英宏可澄善圭直文恵和房寿 一雄清彦英修彦子榮史昇男明信征平子枝広子子堯子美子幸勉子義男人治彦子行博



各支部連絡先

◆関東支部長

山本 宏平 TEL043-211-6031

◆関西支部長

野口 英征 TEL075-314-1703

◆仙台支部長

本間 弘信 TEL022-277-7654

◆新潟支部長

飯沼 和男 TEL025-233-7518

◆新発田支部長

大滝 昇 TEL0254-22-2833

◆関川支部長

伊藤 保史 TEL0254-64-1010

◆群馬支部長

石栗 秀明 TEL027-327-7104

◆山北支部長

菅原 義榮 TEL0254-75-2252

◆中京支部事務局

岡田 康子 TEL0565-42-4220

▶本部事務局 事務局長 長谷川修一 TEL・FAX 0254-53-2779 email murakou-dousoukai@mail.iwafune.ne.jp

りました。

買息支部

木村 春夫 (23 回生)

が行われ、たくさんの当選者が歓びに包ま の喝さいを浴びました。 の撮影秘話などを語っていただき、参加者 督、鶴橋康夫さんが出席なされ、「蚤取り侍_ れました。また、総会には十回生の映画監 の情熱的な民族音楽を楽しみました。その はアフリカ西部に位置する、 ギニア共和国 村高同窓生の熱気に溢れました。懇親会で を来賓に迎え、六月十六日に開催しました。 飯沼新潟支部長、関矢校長、高橋村上市長 の主婦会館プラザエフにて尾崎同窓会長、 会場は当日、関東地区在住の百二十余名の 関東支部の「同窓の集い」を今年も四谷 宿泊券など豪華景品があたる抽選会

きました。同窓の集いのほか、機関紙「村高 名の三十一回生の皆さんに活躍していただ 史散策も行っています。 関東支部ではこう の発行、さらには年二回のゴルフ大会や歴 した活動を通じて会員相互の親睦を図って 今年の総会は坂井昌夫実行委員長ほか四

友人を誘って参 同窓の方は是非 お待ちしており 加してみてくだ したことのない 集い」等に参加 まだ「同窓の 幹事一同



閮 画支部

野口 英征 (14回生)

があり、 ある高校を目指す取組みなどを、そして 選ばれたこと、平野歩夢君が平昌オリン 乾杯を皮切りに、支部長として最近の村 京都駅前の京都新阪急ホテルで関西支部 ケートパーク絡みの丁寧な説明がありま 加藤課長からは瀬波海岸に建設中のス 上高校の現状として留学生の話題や特長 れたことなどを紹介、尾崎会長からは村 ピックで銀メダルを獲得したこと、村上 上の話題である続日本百名城に村上城が りました。多くの常連の方や久し振りの の総会と懇親会を開催しました。来賓と した。その後参加者各自からの近況報告 大祭が国の重要無形民俗文化財に指定さ に集合写真を撮り、 方など二十五名程の参加者でした。最初 上り予定時間を超える三時間程の会とな より小田会長を迎えて終始賑やかに盛り 委員会より加藤課長、関西の岩船村上会 して同窓会本部の尾崎会長、村上市教育 早くも真夏日の続く五月二十六日出に 来賓や参加者有志から頂いた品 飯嶋先輩の音頭での



ごろに掲示い の欄に九月末 る、新潟支部 きましては、 に同居してい ホームページ 本校の同窓会



鄒 温雯

富樫 茂 (20回生)

した。 席を頂き、 に同窓会長並びに村上高等学校長のご出 新潟支部総会は二十九年十一月十七日 アートホテル新潟で開催しま

ある菅原さまの音頭で〆を行い、次年の抽選会のち、本日の紅一点の参加者で 乾杯で懇親会に移行し、旧交を温めまし 後に久々の出席をされた貝沼英樹先輩の

ぜひ、母校の現状を生の声でお聞きでき もその一因なのかと考えております。 る機会ですので、新潟周辺にご在住の同 時間前後で帰れる所なのか、マンネリ化 再会を誓いました。 てきているのが現状です。故郷村上には一 本年も十一月に開催する予定しており、 少子高齢化で母校の入学者が少なくな 新潟支部での参加者も少なくなっ

期日等につ

横山副支部長の司会兼主催者挨拶等の 挨拶、来賓挨拶に続いて議事に入り原案 総会は物故会員に黙祷した後、

支部!

と題して、写真の撮り方や作品を披露し て頂き大変好 ている幹事の沼倉輝美氏から「旅と写真

評でした。

谷川久子さん 無事終了しま 歌を合唱して のリードで校 盛り上がり長 いつもの通り 懇親会は



瓠 膃 部

大滝 (16回生)

四月八日印に豊谷殿において来賓として もと、新発田支部総会・講演会・懇親会が、 だき総勢二十四名の参加で開催されまし 長、長谷川修一事務局長のご臨席をいた 母校より関矢和彦校長、 今年も春の訪れを知らせる桜の満開 尾崎克博同窓会

どおり承認されました。 来賓挨拶の中で、関矢校長から、

スへとなり部活動はじめ学校運営も厳し さを感じている。近年の教育環境や少子 らも元気の出るおはなしをいただいた。 続いて尾崎同窓会長と長谷川事務局長か 同窓会の温かいご支援をお願いしたい。 くなっているが先生方も頑張っており、 化などにより一学年五クラスから四クラ で創立百十八年となり、歴史と伝統の重 講演会の講師には、県展に毎年入選し

保史(26回生

部より尾崎会長、長谷川事務局長に御臨 の諸活動の近況を説明していただきまし 席いただき、本部同窓会活動や現役生徒 の参加を得て開催されました。当日は本 平成二十九年度の関川支部総会が平成 年三月四日雲母温泉清流荘で十六名

ん懐かしさを感じながら歌い上げまし 会は恒例の校歌斉唱から始まり、 皆さ

を承認いただきました。そして役員改選 で私が支部長に、稲家誠氏が幹事長に選 あいさつをいただき決算・予算等諸議題 で今後一人でも二人でも増やして行きた 任されました。支部活動の中で若手の参 今回で勇退を表明した渡辺支部長より 女性の参加がほとんどない状況なの

れ

今回会を立ち上げて以来出席戴いていた 時間が過ぎるのも忘れてしまいました。 ん昔の思い出話を肴に酒を酌み交わし、 懇親会はテーブル形式で行われ、皆さ

を願っており ただけること は出席してい は非常に残念 来なかったの 部長が出席出



す。

伽

本間 弘信 25回生

びませんが、毎年少しずつ数を増やしてい 釣り場の船の数は、震災前のそれに到底及 船で生業を立てている方もおり、誰も海釣 がら仙台湾で波に揺られていました。遊漁 りましたが、その年の秋にはびくびくしな で暫く船に乗って沖に出るのを躊躇してお るように思います。 をやらなくなったのでは復興は出来ません。 が好きです。不謹慎ながら、東日本大震災 岩船の海で育ったせいか、私は海の釣り

話などで盛り上がったのでした。 を抜け出し、 苦手だった古文の先生の話しや、私が授業 が抱える教育の問題及び村上市の街の様子 たが、圓山氏から最近の村高の状況、地域 などをお伺いしながら、皆で楽しく語り合 加えて総勢八名の慎ましい会ではありまし いました。特に私は圓山氏と同期でもあり、 をお迎えして開催しました。初参加の方も 十二月十日に、本部から圓山文堯常任理事 さて、平成二十九年度の仙台支部総会を お城山に登って早弁を食べた

今年も十二 を是非お願 月に総会 い致します。 方々の参加 支部会員の高齢化が進んでおり、



卿

風の中、本校より長谷川事務局長様、 任の故大嶋支部長の時と同じANAホテル DVDを放映いたしました。 林の間にある大池公園にて白鳥を撮影した の訪れの手記゛翔美゛内山晟氏の岩船と神 数となりました。今回は二十九年度版同窓 グランコート名古屋 "花梨』にて開催、 て初めてご出席の三名様、再開後、 間をおいて昨年十月二十九日、 最多人 そし · 台

のカンパで賄いました。ご協力には感謝致 幸です。宜敷くお願い致します。 若い方の出席が少なくなったのは、平成 しております。美しい画像を楽しみなが 持ちの方は、事務局までご一報を戴けたら でしょうか。支部へのご意見やプランをお ら、会話も弾み今までで一番の盛会でした。 一十五年に支部再興までのブランクが原因 機材に費用は掛かりましたが皆様から



岡田 康子 (18 回 生

26回生

皆勤賞授与式 新潟県立村上高等学校奨学会 一般財団法人 代表理事 長谷川

毎年、卒業式前に三年間無遅刻無欠席で 併せて行われてきました。 在までの42年間にわたり奨学金の支給と た。この事業は、奨学会館の竣工から現 あった卒業生に記念品を贈呈してきまし ある皆勤賞の授与式を執り行いました。 前日、3月1日、 村上高等学校の2017年度卒業式の 奨学会の事業の一つで

た、このような毎日の地道な努力が人生 ふれる姿に改めて感心を致しました。ま のと頼もしくも思いました。 の礎を築き、力強く生き抜く力になるも は、村上高等学校の生徒の健康で活力あ 約二割の卒業生が対象となり、授賞式で この度は、卒業生177人中、35名、

計等を贈呈してきましたが、この度は、 彫堆朱の校章入りペン皿を贈りました。 励んでほしい」と思いを込めて、村上木 「地場産のものを使って、さらに勉学に これまで、記念品として広辞苑や腕時

上高等学交の校章が彫られたものを用意作を依頼し、縦約2㎝、横1㎝の皿に村 して頂きました。 也さん、長井町の「小杉漆器店」 ペン皿は、奨学会の監事である小杉和 様に製

おります。 卒業生にも大変好評であったと聞いて

会の皆様にも宜しくご協力の程をお願 続していく所存でございますので、同窓 生徒に対し物心両面にわたり、支援を継 今後も、 奨学会として出来うる限り、

村高

遠くにありて

鈴木 富夫(10回生)

がけれた売書などのよう。、十三年になる。「けやきぶ村上に通っている。もういま私は、毎月一回、

次郎さんのころと違うにしても。 なんだぜ、淫らでいやだったよ。石坂洋 何しているのだお前たち、周りを見ると よしなよ」といいたくなった。呆然と見 光景に出遭う。下校する男女生徒ふたり、 諸君をながめているうち、エエッという いよ。でも恥ずかしいな。二人とも制服 のか。私だって、質実剛健なんぞいわな うなったのだろう。校風って、どうなった 校門に背を向けた。いつから、母校はこ る。恥ずかしくて、私は、下を向いたまま、 る。私だけが見てはいけないもの、見て 村高は、後輩たちはいったいどうなってい ナラ」とか何とか。どうなっているんだ 先生らしき大人が声をかけている。「サヨ ている私の前をまた別のカップルが来る。 手をつないでいる。驚いたなあ、「お前たち、 村高の側を通りかかった。下校する生徒 晴天の午後、ちょうど下校時間くらいに には近づくまい、と決めている。その日、 なるか。驚いたことがあって、もう母校 高校が三の町から駅前に移って、何年に 私の村上通いは続いている。母校の村上 私が体調崩したり、入院した間を除いて、 まは塾生、四十人くらいかな。その間、 んこ」と名付けた読書会をやるため。い

ないひとつ。ありて」がある。私、暗誦している数少ありて」がある。私、暗誦している数少室生犀星さんの詩「ふるさとは遠きに

とおもひ涙ぐむ/そのこころもて/遠きにあるまじや/ひとり都の夕暮にふるさて異土の乞食となるとても/帰るところして悲しくうたふもの/よしやうらぶれるさとは遠きにありて思ふもの/そ

どうだろうか。私みやこにかへらばや

すら待っているのだから。とうだろうか。私のふるさと、村上。とうだろうか。平野くんが出てほしい。ひたがらいいのさ、変わらないから。私は、たからいいのさ、変わらないから。私は、たからいいのさ、変わらないから。私は、だからいいのさ、変わらないから。私は、だからいいのさ、変わらないから。私は、がつ行っても村上駅を出ると、同じ風景、いつ行っても村上駅を出ると、同じ風景、いつ行っているのだから。

声に、

5



プロフィール

中九三九年(昭和14年8月25日)村上市三 の町生まれ。村上高→早大卒(一九六二年)後、 の戦取締役。平成16年、六年自宅介護につとめたが妻晟子死去、平成18年、朝日村中島に、 本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」をひらく。以来本を読む塾「けやきぶんこ」で過ごす。趣味のゴルフはやめたので特になし。読書は趣味のゴルフはやめたので特になし。読書は趣味のゴルフはやめたので特になし。読書は趣味のゴルフはやめたので特になし。読書は趣味ではない。

あゝ「歌会始」!

阿部

昌彦(4回生)



たのです。と贅沢な悩みに襲われていどうしよう」と贅沢な悩みに襲われてい行も不自由でした。「参内の自信は、ない。病名七つ、その上雪道で膝を捻って歩

った、思っております。
とれが徒労でした。十八日に宮内庁式のに、思っております。「お漏らしにおらないように特にお願いいたいます」の文言があります。「お漏らしにおらないよう」に八十五歳、ノコギリヤンの愛用者は思わず苦笑してしまいました。「記憶にある限り」違反しなかったように、思っております。

さて、「佳作」に滑り込んだ愚詠は、

の花束奥に見えたり 私語のなき授業となりて定年のわれへ

で、平成七年一月後半の場面を思い出して、平成七年一月後半の場面を思い出して、平成七年一月後半の場面を思い出して、平成七年一月後半の場面を思い出し

実は「語」で何首か作りました。中に

- 語のうつくしきかな睦月冬晴れ・揃ひ来て「お嫁になります」とふ日本
- でる国の空澄み渡るりぬ中立の叶は

とりわけ「東日本大震災」を詠まれた、の短歌に深い感銘を受けていたからです。募のきっかけは、日頃、美智子皇后陛下に栄誉に浴することになりましたが、応ところで、「歌会始」に応募して五年目の整合性を図り応募しました。

- とふ文字を歳時記に見ず帰り来るを立ちて待てるに季のなく岸
- 秀歌を毎年発表されておられました。 の死にし春逝く の死にし春逝く

日差し静かにそそぐ語るなく重きを負ひし君が肩に早春の

と今年は天皇陛下の長年の務めを労られ日差し静かにそそぐ

「が一、「人選」であいてしましてら「下すが、「奇跡」は二度は起こりますまい。生活の中に光を求めようと願っておりま来年は勅題「光」であります。何とかる「愛」の歌でありました。

んて、夢は楽しいものであります。等に当選しましたら「同窓会に・・」な末ジャンボ」でも買いまして、それも一方が一、「入選」でもいたしましたら「年

プロフィール

村上地区等で短歌会の講師を務めている。また、「歌声・母校の「百周年事務局」に入り運営に携わった。は村上高校に非常勤講師として六年間を過ごした。その間、の村上高校では、山北分校を含めて七年間勤務し、定年後の国語科教師として、下越地区で教鞭をとる。母校

歌の作詞を依頼されている。 村上市立村上南小学校、新潟県立村上中等教育学校をは村上市立村上南小学校、新潟県立村上中等教育学校をは村上」を立ち上げて八年間、代表を務めた。

村上市飯野在住

路情報

大学等

合格

状

況

(平成30年3月・浪人生を含む延べ数)

村 万 号 高

の

現

況



教頭 島田 修

今年三月、 新たに

れの進路実現に向け、生徒教員一丸となって の七〇%には届きませんでしたが、 それぞ 卒業生の大学等進学率は六六%で、目標 会に入会させていただ 一七七名の卒業生が同窓

迎え、全校五二二名の村高生が今日もいき 与えています。 彼女の存在は、 きには既に帰国していることになりますが いう留学生がいます。どうしても村上高校 五カ国語以上を操り、明るく好奇心旺盛な の在籍のため、この会報がお手元に届くと イスからやってきました。七月までの半年間 で学びたいという願いを実現させ、二月にス いきと学校生活を送っていますが、その中の 人に、ソフィア・パパドプロス(写真)と さて、四月には新たに一五六名の入学生を 本校生徒に大変よい影響を

けるための活動を今後も引き続き推進して れからの社会に必要とされる資質を身に付 に取り組む態度、グローバルな視点等、こ な活動をとおして、主体性、協働して課題 の英語によるプレゼンテーションなど、様々 ています。地域探究学習や海外修学旅行で を目指し、「村高イヨボヤプラン」を実施し 本校では、地域に貢献できる人材の育成

ついては後述いたしますのでご覧ください。 部活動は変わらず盛んです。主な成績に



留学生 ソフィア・パパドプロス

進 路 情

報

最後まで粘り強く努力いたしました。

学に合格しました。 学の6名をはじめとする18名が国公立大 は6・1%となりました。また、新潟大 107名、短大が10名で、大学等進学率 卒業生177名の進学先は、 大学

どの難関大学を含め、154名が合格し、 学院大学、近畿大学、学習院女子大学な 90名が進学しました。 私立大学については、明治大学、青山

うち2名が村上 職者は5名でし た。県内就職者 郵政株式会社信 市役所ほか公務 7名が就職し は2名、県外就 企業に進みまし 越支社など民間 卒業生のうた 5名が日本

29

		1 10	4 1	労 上	. , 5
0)進路	状況	(H3	30. 3)》
	短	専	就	浪	
	期	門		人その他	計
	大学	学 校		の	ēΙ
	学	校	職	他	
	1	16	3	7	87名
,	_	20	4	1	00 47

《卒業生 国 私 公 17 <u>1</u> 大 53 7 10 37 9 17 90 10 45 8 177名

·国公立大学 19名◆ 北海道教育大学 (1) 新潟大学(7)・山形大学(1)

都留文科大学(1)・釧路公立大学(1) 新潟県立大学(3)・首都大学東京(1) 北見工業大学(1) 青森公立大学(2) 長岡技術科学大学(1)

・私立大学 156名◆

東京理科大学(1)・明治大学(1)

学習院女子大学 (1)・國學院大學 (1) 青山学院大学(1)・近畿大学(1)

東洋大学(1)・日本大学(5)

駒澤大学(1)・専修大学(4)

神奈川大学(9)・東海大(10)

新潟医療福祉大学(12)他

▼短期大学 11名

山形県立米沢短期大学 3

新潟青陵大学短期大学部 (4) 他

・専門学校 56名 ●

新潟公務員法律専門学校 (7)

新発田病院付属看護専門学校 大原簿記公務員専門学校 (6) $\widehat{4}$

新潟県厚生連佐渡看護専門学校 3

長岡赤十字看護専門学校(2)

新潟医療技術専門学校(2)

新潟こども医療専門(2) 他

新潟病院附属看護専門学校(2)

男

女

計

紹介します。 県大会で優れた成績をおさめた選手を

◆第11回新潟県総合体育大会

◎陸上競技男子

4×400mリレー 5位 八種競技 ※北信越大会・インターハイ出場 1 位 織田

(織田・東・上野・富樫・桑原

◎少林寺拳法男子 ※北信越大会出場

◎バドミントン女子 単独演武 2位 ※北信越大会・インターハイ出場 安藤

団体 ベスト8

◎弓道女子 団体 ベスト8

▼北信越高等学校ライフル射撃競技選手 権大会

◎エア・ライフル男子 10m立射6発 8位 ※全国高等学校エア・ライフル射撃 競技選手権大会出場 山崎



平成 29 年度 会費納入者名簿

会費納入者のお名前を掲載いたしました。 本会運営へのご理解ご協力に対する御礼に代えさせて頂きます。 ※平成29年7月1日から 平成30年6月30日着 金分まで掲載。

岸尾阿荒八大中菅小木加小奥渡横横斎小伊伊渡吉山高斎小瑜山平長遠佐後加加小大成莊岡遠井斎安横平富高小石鈴奥澁田 野坂部木宁場田沢林村治田村辺山井藤池部東邉田口橋藤川伽田山川山間藤藤藤野滝田司部藤伊藤達澤山樫原田山木村谷中 久 市 正 純 牧 和 石 光 徹昭久 俊歲光昭和禮源 健芳与 真建有幸松初利勝有 喜英敏錬 一夫郎潤司治信一男男也衛功郎勤義章弥郎夫一夫夫郎雄宏生三蔵勲雄雄治郎夫郎一成督雄郎郎雄英八夫男博潤仁一策雄三 近小北板青阿阿涌米松增新中寺田鈴佐佐坂齋斎小小加貝小小家横山村松本細中高高清澤佐佐佐小小小倉川川神小小石渡木 池村垣木部部井内本田野村沢村木野藤部藤藤林池藤沼田田田田本上村間野村原橋水田藤藤藤林堺出崎村上谷野田栗辺村 五潤 義和昌武広義丞欽格芳淑勝清清正充奎悌 正 次正金昌謙鉄信睦久 光光可良良三俊賢公廣雄 重正 徳岩一 郎治潔男男彦雄作人治一夫夫実実一廣夫孝二三宏雄栄郎二幸典輔平男雄一清篤康夫男昭次夫男定二司一一孝夫彦等次雄昭 平 樋 東 野 新 南 永 遠 敦 津 高 高 鈴 鈴 菅 佐 佐 佐 佐 佐 佐 松 小 片 小 小 大 大 江 井 稲 稲 板 飯 青 浅 渡 渡 横 八 村 美 丸 松 本 平 樋 中 中 忠 鈴 佐 坂 近 藤藤藤藤井松野田田山瀧倉端上葉葉津沼木川辺辺山筏山濃山田間田口山村 方口山沢野波田山賀野橋鴨木木 富五八貴 重 庄英良由公一祐セ潤幸和久朋徹勝栄 正俊文 新正隆暢 安慎泰幸 岩公直幸久康義雄 義泰昌定六久鑛 男子一男子二久平実衛夫子男夫郎郎キ子助彦子子栄四雄浩輔彌夫實雄郎子孝一友次男和榮郎造男務次茂郎郎男夫平忠肇悟 佐坂坂斎齋小小金江內伊稲板石橫水松本樋野中中中外富高鈴菅佐佐佐斎斎小小小大大岩稲泉飯荒相渡渡渡湯山山森宗本本 藤上上藤藤林林子見山藤垣垣井山野田間口中村村野門樫野木原藤藤藤藤藤松薬野平平澤葉原田木澤辺辺辺浅田口山村間間 東志郷順郁雄千右和素 留イ敦誠文貞和三豊義 裕惠悦正昌富 承藤國 斎近熊川片片 小 小 小 押 岡 大 大 大 大 内 伊 伊 稲 稲 伊 伊 板 磯 石 五 飯 飯 浅 合 渡 山 山 水 本 檜 林 野 長 永 中 中 中 徳 富 津 田 谷 棚 高 高 鈴 佐 佐 口浜田山村林橋樫野村屋橋橋澤木藤藤 正一千国れ美義茂 士博功倍弘正 岩 ヨ 節 甚 賢 重 マ 愛 宏 時 賢 良 正 吉 紀 道 田 純 洋 正 公工良将健助英元弥 守 富 キ衛彦昇子子彦子一衛子一郎勝次也子男い子雄孝博次洋雄勝郎喜子男晴美貞雄ウ子郎司誠ツ子平男一郎実章美子子一子彦 富長田島里佐佐佐佐近工伊稲稲伊伊市板石安涌山八諸森宮丸丸前本本星宝藤長野中中滝高鈴鈴鈴鈴杉菅佐佐佐佐佐佐佐佐紫 藤ゴ葉垣藤藤田垣川斎井口後橋山坂山山田間間野田井川口山野沢橋木木木木本井藤藤藤藤藤木山 中田村藤藤藤藤 千金孝 捷剛六左久美 忠 昌耕昭龍サ智菊武 泰克 伸洋ト 宫 勝和 詢朋長タ彊公和百ミ 子司蔵子進男子子弘純則義衛夫子モ秀子繁雄武平輔朗門子生馨彪雄隆夫次二作イ子栄司正子直子子格子子平エ介夫子子キ 本堀細古船樋浜長布長富富遠津田田高鈴島佐佐佐佐佐佐佐青唐亀加小大内井井伊五安渡吉吉横山山宮三本本福原羽根中中 間田野川山口田川川島樫樫山島中沢柴木田藤藤藤藤藤藤村野津井藤田滝山上上藤嵐藤辺村田山田崎部浦間間井田田岸東島 直 紬 祥 康 弘 美 史 建ア和宮芸 和 節 貞 重 跙 建 弘興新 典 健 春邦優 律 澄 博誠正勝雅 $\uparrow \uparrow \uparrow$ 成子賢操子興子夫二昭代利晃勝子ヤ雄夫津実和子栄清良平洋春興二基一熙文隆郎武子子子享子子卓明治英治史武郎男稔市 本本星星藤樋長二鍋鳥富弦土高高高瀬菅菅菅下佐佐佐佐佐佐桜斎斎近近小菊川川片片押大大小上市渡渡吉横山山山山村三 間間野野田口川瓶倉屋田巻屋松橋橋賀原原原田野藤藤藤藤木井藤藤藤藤薬池村名桐岡切矢平野野島辺辺田山田田口口山浦 千 公 明 由 光 貞 英 紘 柾 栄 圀 芳 千 恭 恭 在 幸 鐡 克 ジ 公 正壽久敏正丰 久 玲 治 朗茂子子彦司子子平司子子子雄平清義子昭子子吾稔子道治譲洋靖子子雄晃惠一雄子子夫男一郎造子三屋子子敬子夫夫ウ平 吉山山山山山森美丸本本本船藤平平平平服長野当富坪田須清清佐佐佐佐佐小小小熊押小小大伊青渡脇山山村村水松松町 村脇宮田賀賀川縣山間間間山崎山山田田部川沢摩樫山中貝水水藤藤藤藤藤木山林林倉切木原島部海辺川崎口山田倉田澤田 政 イー百隆信純 サ和英信信 邦泰晴智裕文幸勇美喜征昌郁由英忠紘 久良正邦 共由正信道美 三イ恭良和征純宏 高 恵 恵 志昂ツ三子次夫子隆チ子子之子進彦治子子二子彦巳子一幸子子弘昭二一修子子子彦勲子子子三子子麟衛子子彦彦一司明信 渡渡鷲吉山山山八森村三松前前藤藤西中中中長津田谷高滝菅須斎斎鈴陣佐佐佐佐佐小児倉木河加勝風岡岡内伊伊板飯飯渡 辺辺田田脇田田後山井浦村田田川井山山村田川野村口橋沢原貝藤藤木谷藤藤藤藤藤菅嶋松村内藤見間本本山藤藤垣沼島辺 シ和 シ 重ミ比 洋寛忠信忠ヒ昇正絢良 ミ 弘 嘉テ純敏良 恒建寬一卜紀義一邦幹 幸良光 男造繁子子正子浩行ヨ夫命二郎男夫雄子一子子明強ヲ翼司明子ルー之造徹明夫司夫子子男美彦司進江枝子洋衛夫也太強子 五荒青秋渡米八山吉村村宫益細藤早野成中鳥鳥富時富土寺長丹田田田高高鈴佐佐佐斎斎斎黒木菊片笠笠貝小小上伊伊板渡 □ 嵐井山山辺野後貝田山山本田野田川口田島山屋山田樫肥澤 田村澤沢橋橋木藤藤藤藤藤 藤岩村池野舛原沼野倉野藤藤垣辺 チ光澄幸紀量明和孝コ健英 俊玖英友 千洋 幸利直昭昭兵 禮都博敏信久孝勝隆健 紘レ秀義綾孝ム好三フ源 明広 忠ヨ夫子子男平生子夫卜郎夫勲彦子征作眞習一久子夫子子栄次寿次子愛治雄也子利男一攻子子雄房子子子昭年ミ一敏治子 石五阿阿阿明渡渡吉森森武明宫宫松松本本林服沼中中中藤寺田田田田竹高鈴菅佐佐斎斎斉小小小小木上片小尾太上岩井伊 川嵐部部部間辺辺川田田藤前治川山澤間間 部倉島静倉間井村村村中内柴木原藤藤藤藤藤林林林林村村野田崎垣原谷上藤 淑松義賢 万美雅雄富丰克寿マ正勝 直邦信越輝淑邦俊正賢昌 久敏 正益正 茂文忠啓澄勝勝一麗孝親洋 亀智 子夫人一絢子子隆次夫ト子ーチ康彦正大朗雄郎美子子文明二志隆七溥精義雄義武男郎義治子利三能子子義雄茂リ子 大植今伊市板石五五阿阿青和渡渡渡山茂宮本本平二奈中中中土忠竹瀧高園鈴鈴菅菅城佐佐佐齋木木川河蟹加加小大伊井居 島村井部川垣川嵐嵐部部塚田辺辺部口原下間間山宮橋山村尾田 内澤橋部木木原井 藤藤藤藤村村上内井藤藤田滝部上城 美三 新香茂敏準保照茂国順仔 杏幸裕正好 長章雅三守博雅文和 雄志子健子子睦一子三子子進和男衛平子保夫二男子樹男治子護子恵夫平弘子愈英人代男弘明子子子裕子子子代夫昇子実士 山山山山森村村宮宮美南三增本本本武別長長新奈中富遠当田田田竹瀬鈴菅菅佐佐佐佐佐斎児小小栗倉久日木菊菊金勝小小士 谷谷田良本田上貝田山田本 濃 科井間間間俣府川川見橋村樫山摩所嶋沢内賀木原原藤藤藤藤木藤玉池池山崎美下戸谷谷谷山田田 宏 留千 栄久絢貞公禮 降松千文里ヨ憲マ寿信芳和 和庄貞弘裕雅茂浩昌千節幸成憲正信正 テ縫正忠 き法清佐サ 代 津リ サ 世 ル ぬ ダ ダ 平稔実美子誠輔子子二隆三清吉明子子子子明子栄三次子建子一子美子之生平子子子一子夫弘義郎修子子平吉敏子子信敏子 関瀬 瀬 鈴 鈴 鈴 須 小 島 志 澤 佐 佐 佐 坂 斉 斎 齋 斉 斉 近 近 小 小 久 木 木 川 川 金 笠 隠 小 小 小 奥 岡 大 大 大 大 牛 今 伊 板 石 五 飯 飯 青 渡 吉 山 山 明 十 根賀賀木木木貝路田賀田藤藤藤井藤藤藤藤藤藤 堀嶋世村村村上田原寺田田田村田場滝島島尾井東垣栗嵐島嶋山辺村本本 一秀恵昭久い京 隆博洋せ賢一み良周幸 朝俊 紗信イ道克正伊昭夕恒友太勝哲康セ八睦幸千ゆた重千俊 一信伸美秀貞 枝雄次次子子勇夫子一つ次夫つ一平枝清男夫猛子男子夫栄義志子マ久弥一與夫子ツ子子男子子み之子正久敏子栄子子明 佐佐佐児小剣菊金加小小奥岡大遠岩井井磯五飯阿秋渡渡渡米横横山間益本本本福兵平平浜野長中徳津田田竹竹竹高高高 藤藤藤玉池持池子藤野田村田沼藤本上上部嵐沼部山辺辺邊邊山山山口部田間間間元動山山中田山山留野辺沢内内内橋橋 喜ミ静 ゆ和愛芳陽幹ま妙は典貞正周茂陽浩テ公まかり、 ちょう 美正栄眞良甲い陽治泰 良吉 寿 耕 悌 恵 幸 ヨ 大井稲市伊伊板板池五荒阿阿明青渡渡渡若吉横横山山山安村美增本早服長長長野丹長中鳥時遠田種高高高鈴鈴鈴菅菅菅 十 島上葉村藤藤垣垣田嵐木部部野山部辺辺邊林川木井脇本下沢山部田間川部部川川口羽坂村屋田山村部橋橋橋木木木原井井 高政光悦節司廣喜米敏晃美 香恵洋史 さ梅俊幹 文治孝み千ミ喜一恒里 啓英正三富 幸拓初幸広千繁 万久実初小 和 保 廣彦明子子郎文子雄郎道子周子子子子久融と子明男哲忠郎雄子子子枝雄雄子充子夫玄子子実治夫美子子子實実夫雄雄雄子 文治孝み千ミ喜一恒里 啓英正三富

長中中中中中中富富富寺高高高高高音管菅营志佐佐佐佐佐佐佐佐酒斎齋斎近小倉楠木木川金加勝片片柿尾尾奥小大大大大太 芳ム成賢慶陽ヒ 陽方秀俊高和満恭満常里充和勝 新幹隆正逸壮裕み啓克旬 木木川川河上鎌片片小小小岡内薄伊磯池五荒阿渡若吉吉横山山山山村三松松松益本本平平肥東伴繁春羽長長橋沼西新奈奈 村村上內內村田野野寺田川見山井藤部田嵐木部辺月田川山田田貝貝山浦本浦井田間間山山本山田多木深川川本 川沼橋橋 幸 潤吉正真 幸午 み繁 眞和雅孝琴邦泰裕光京房 澄由一信澄 澄 久 克 大ト修由康 ー 知 ー さ 雄一男正一郎子子猛子郎優子雄徹弓子章次美子次子男子夫誠三勉子薫子子市行子廣正豊枝子憲寛子茂三子一子雄正子子江 佐斉櫻近小小木川川加小小奧浦稲伊池五飯和渡渡山山宮美本本細舩飛萩野難谷滝滝滝高瀬鈴鈴清清佐佐佐佐佐佐佐。斎近後小 林島村上内藤野野村野葉藤田嵐沼田辺辺際崎嶋濃間保野山田原口波口波沢沢橋下木木水水藤藤藤藤藤藤藤藤 南鳥寺長高高佐佐櫻佐黒熊木加河小小小大大色伊板石池青渡山森持村美松本本平中中中富遠遠剱長長田田竹高鈴鈴菅澁佐 橋橋藤藤井伯根倉村藤内谷田川場滝部部垣井田野辺賀 田山濃村間間山山島倉樫山山 村島内野木木原谷藤 和繁工睦正春和恵太行正茂克潤英和秀久倫和三幸裕 忠義 直彦正喜 千た利正春立ゆ英恵美鉄義 佐佐坂齋齋近小工木木川量小尾奥大大内伊池青渡吉山百松本本野西西中中遠田高高高高須斎勝小上五阿和渡山美三細広平 藤間井藤藤藤林藤村村村山田崎村滝滝山藤田柳邉澤本武村間間田村村村東山口橋橋橋野貝藤見田田嵐部田辺田野国谷井山 敦美松 由保重健與浩茂賢 祐文正富善則宏克洋文 さ成由文和喜勝昭三 久芳康市直 加夫 ま育純厚く 尚 小河木北川加加加小小小緒大大稲稲伊板石石石五飯飯浅渡渡吉山矢三丸圓本船新長中遠田竹嶽田高瀬鈴鈴菅菅菅須菅佐佐 林面林村村藤藤藤田川川形島草葉葉藤垣田田川嵐浜沼野辺辺田崎部浦山山間山野柄田山島内岡川橋賀木木原原原貝井藤藤 敦 兼 寿 幸 美 晴 宗 妙 保 正 次 明 典美謙哲欽久ユ常和み文弘三明知勢栄啓 方保勝 友智 佐 奈 仁リ な 喜 津 ど 智 志 徹清子良美子栄子人幸章一子美元子史敏夫彦賢信子子一栄也子子男紀子堯信雄美子子子資宏子雄吾功り子亮子一明一寛一 羽中高遠遠高瀬鈴鈴鈴東三佐斎齋齋大大太梅臼稲板板石石阿脇横山八水本本平長長塚田高高相鈴鈴鈴菅白佐佐佐佐桜坂近 田野橋山山橋賀木木木林宮藤藤藤藤竹滝田原井葉垣垣栗川部川山田後島間保山川川田澤橋田馬木木木井沢藤藤藤藤井野 智正節昭明百弘美克和 文賀良泰節 可美章潔 美喜忠圭修合 保 由 根美 ま房岩正政明伸恵文保 真克 信明幸恒吉良勝 則道子一彦子行子夫弘稔子代茂輝子裕子紀子人潔子男彦子一司茂み子夫昭行夫次子也世透一彦郁嘉子一男春明則朗也司子 伊板石石五阿秋秋青渡米横山村宫堀深平東中中戸富丹田田鈴佐桜坂小久楠奥小岩今稲居石安青吉八山山村村水美増本本平保 藤垣田井嵐部山元山辺澤井本井本田田田方山島田樫 村中木藤井井池田田村川野泉家城田達山田幡村賀山田松遠沢間間田 広広幸一 礼宗泰春俊一浩善久暁ま幸繁明法真 敏友久ま 芳恵育広浩重た優由春留房則寿 司一澄充子一司子山美肇幸三博則亨子子子美哉彦平広子美子子子弘生子浩明子子子誠誠明子美平道雄子子子美子子行和昭 丹田竹高高高高高相鈴菅菅菅佐佐佐佐佐佐佐佐酒斎斎斎近近近小小木木木桐川川川川金加加勝大小小大大大太大遠臼岩稲川 田辺石橋橋橋為馬木原原原藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤 林池村村村生村村村村子藤藤海宅田原滝滝田田原藤井沢葉 一良正和寿邦泰正 美ひ敏甚勝和英千千秀 一 イ 明 る 良 富 憲 俊 清 啓 正 祐 広良行優保さ悦 恭真紀哲月義 滋覚彦人雄衛男之敬雄男子美子浩子昭樹剛八二子介隆子平夫佳子彦子夫斉子み晴一子子人尋穂夫尚子夫則子雄み子隆光充

杉東島三佐佐佐斎斎斎日川尾大大内板石五五五阿阿渡渡和吉吉吉山森最村宮宮丸松松本本本本舩深長長中中中中島富津長 内板石山姬野高菅澤佐佐佐近小大横山三成富津田高高澤斎近木川加加小小石渡保伴藤長羽中中津丹田田建竹高高相相清鈴 谷 杉 滝 山 口 国 田 樫 野 村 橋 崎 永 藤 藤 村 内 藤 藤 幡 田 黒 辺 田 田 井 部 沢 山 村 島 田 中 中 部 内 橋 橋 馬 馬 野 木 山垣栗田路澤野原野藤藤藤 久節信庄初寬美芳 良 大聡高か京滋夛 哲信秀宗 裕直浩俊正浩貞幸和 麦 洋 定 重安俊一昌 桐木加小大大太横前難丹田高鈴菅澤佐佐佐佐斉權唐小大安阿吉森森原鈴佐佐佐伊渡渡渡渡樋原中富遠田高鈴鈴佐工小大大 生瀬戸田平滝田山川波田村橋木原田藤藤藤藤正戸野西久部田 木野藤藤藤辺邉辺辺口田原樫山村原木木藤藤田平滝 多 敏隆新克鶴郁安耕悦正 誠壮弘由隆 信克裕郁達律 公勝あ安富英佳英 智健隆裕 直利 好和敏文俊雅則豊 太羽富寺只高郷工大磯飯高鈴佐木小吉峰前本布長中清加加海大山山永中佐金金海大青渡渡渡脇横平原南奈中高高富富鈴佐 田野樫澤木橋内藤野部沼野木藤内野田田田間施濱村水藤藤沼滝田崎田村藤子子沼滝木辺辺邉川井山田波須島橋橋樫樫木藤 貴 政 宝 政真哲 知研 信力慎賢 博英達綾和政 宏玄和智恵弘文健郁昌 豊 博 雅 降啓荘博 īE 和雄早恵敏利 石渡土富徳寶相加三真松中竹佐佐小大浮伊天渡涌吉平長田谷高鈴鈴佐佐佐斎江榎石佐木太大伊阿網渡本藤中田佐佐斎栗木 栗部居井泉井馬藤浦鍋澤山内藤藤田島須部木邉井田間 村川橋木木藤藤藤藤見田田藤村田島藤部代邉間田山中藤藤藤山村 慎竜志明良直和多智一美久 さ禎 丈 佳 一 陽 一孝睦さ紀な裕 直聡毅敏 保陽庸保和清 卓 一 鋼 平齋井阿廣中田佐渡平佐稲板八菅佐佐小青富冨佐斎市吉三忠青前須渡渡津鈴江伊石石山山茂富鈴鈴佐佐佐加五渡武中鈴伊 山藤元部井村島藤邊山藤葉垣筏原藤藤田木樫樫藤藤村田浦 木田貝部邉島木端藤塚田田岸原樫木木藤藤藤藤嵐辺藤山木藤 康奈賢菜丈甲泰綾秀裕啓雄和秀美雅 敦 早朱正寬和隆友陽智 拓 桃 睯 晶和友ひ秀悟和友 曲 裕 史 憲 梢一 想郎 美洋太幸子幸一介三男和幸子隆子淳苗理隆子喜介子一博達也子強郎聡子徳和美瑛朗枝洋克堅香子龍子二誠愛義子 坂石鳥鈴佐伊川五高河遠寺伊菅島近板山竹佐佐工板大佐斎海渡白大渡野大渡野佐矢佐伊渡圓長高石飯矢野高佐松中瀧佐稲 井栗田木藤藤村嵐橋内山沢藤原田 垣賀内藤藤藤垣平藤藤沼辺塚平邊澤平邊澤藤部藤藤邊山川橋黒沼部澤橋藤田村澤藤葉 春正誠力秋祐茂惠萌友銀大克美 明和玲哲夏 慧 結陽明和志 優伸祐礼奨智弥美泰和知裕圭陽 " 志勝雄ケ優清雄夫一ウ男二夫子香紀河地彦玖健希孝奈也希唯翔美綾花子代之保卓子樹郎子悟弘生智規也佳太介介 遠板矢菅相小富鹿渡大斎波斎菅渡佐本増本佐長大本鈴関川板阿斎川板稲松平小菅貝細山樋園佐大横髙佐岸中富伊八細外富 上垣部藤上垣葉浦野田原与谷貝口辺藤滝山橋藤野田樫藤幡野山樫 山垣部原馬田樫野邊滝藤野藤原邉木間子間藤野竹間木 順右マ省ト国洋徳 芳忠一鋁 政幸裕千

平成29年度 新入会員 一七七名 新入会員 一七七名 が高広報部会で校正、チェックをいたしましたが、お名 がでいましたら、ご容赦下さ

 収支 差引

29年度積立公

平成29年度村上高等学校同窓会決算書(見込み) (平成29年8月1日から平成30年7月31日)

収2	しの部								(決算増△)
科		目	予算	額	決算	額	比	較	内 訳
会		費	4,900,	000	4,900	,000		0	入会金2,000円×177名 会費2,000円×2,273名 (会費≒2,000円)
雑		入	106,	514	135	,000	△28,	486	利息等 名簿販売
寄	付	金	10,	000	32	,000	△22,	000	関東支部 全-5回5組同級会解散金
前	年 度 繰	越金	7,463,	486	7,463	,486		0	
	計		12,480,	000	12,530	,486	△50,	486	

		12,100,000	12,000,100	00,100	
支出の	D部				(決算増△)
科	目	予 算 額	決 算 額	比較増減	内
숲	議費	200,000	151,000	49,000	総会·理事会·支部総会
事	務費	1,000,000	1,006,221	△6,221	
	人 件 費	350,000	407,772	△57,772	支部総会等出張旅費・事務補助等(3ヶ月勤務)
	福利厚生費	10,000	0	10,000	
	消耗品費	50,000	42,444	7,556	コピー用紙等事務用品
	通信費	200,000	179,074	20,926	インターネット代・郵送料・電話代・ハガキ代 ホームページ・サーバー使用料 ホームページ・更新管理料
	賃 借 料	170,000	165,407	4,593	コビー機カウント料 コビー機リース(10,500/月)
	会費徵収事務費	220,000	211,524	8,476	郵便振替の手数料 支部会費徴収還元金等(新発田支部・関川支部)
事	業費	2,750,000	2,698,734	51,266	
	広 報 部	2,500,000	2,532,734	△32,734	「同窓の訪れ 第67号」H29年8月発行費用 ・印刷梱包費 20,300部 ・送料・ポスター300部
	行 事 部	250,000	166,000	84,000	村高芸術鑑賞会支援 100,000 総会・懇親会関係費(懇親会景品等)
助	成 費	600,000	500,000	100,000	
	生徒会活動補助	300,000	290,000	10,000	全国·北信越大会等出場激励費 生徒会活動支援 200,000
	支部助成費	300,000	210,000	90,000	支部活動助成(関東・関西・関川・新発田・中京・仙台支部)
積	立 金	300,000	300,000	0	記念事業積立金
雑	費	30,000	15,563	14,437	振込手数料他
予	備費	7,600,000	101,180	7,498,820	高校案内パンフレット助成 香典・見舞金
合	計	12,480,000	4,772,698	7,707,302	

平成30年度村上高等学校同窓会収支予算書 (平成30年8月1日から平成31年7月31日)

			(1,0000 10)	コエロから上が	01 1/101 1/
収入の	の部				(減△)
科	目	本年度予算 額	前年度予算 額	比較増減	内
	-44				入会金 2,000円×160名
숫	費	4,900,000	4,900,000	0	会 費 2,000円×2,290名 (会費≒2,000円)
雑	入	102,212	106,514	4,302	利息等 名簿販売
寄	付 金	10,000	10,000	0	支部より
前年	度繰越金	7,757,788	7,463,486	294,302	
	#	12,770,000	12,480,000	△290,000	
支出の	の部			•	(減△)
科	目	本年度予算 額	前年度予算 額	比較増減	内訳
숲	議費	200,000	200,000	0	総会・理事会・支部総会
事	務費	1,050,000	1,000,000	△50,000	
	人 件 費	400,000	350,000	△50,000	支部総会等出張旅費・事務補助等(4ヶ月勤務)
	福利厚生費	10,000	10,000	0	
	消耗品費	50,000	50,000	0	コピー用紙等事務用品
	通信費	200,000	200,000	0	インターネット代・郵送料・電話代・ハガキ代 ホームページ・サーバー使用料 ホームページ・更新管理料
	賃 借 料	170,000	170,000	0	コピー機カウント料 コピー機リース(10,500/月)
	会費徵収事務費	220,000	220,000	0	支部会費徴収還元金等(新発田支部・関川支部)
事	業費	2,700,000	2,750,000	50,000	
	広 報 部	2,500,000	2,500,000	0	「同窓の訪れ 第68号」H30年8月発行に伴う費用 ・印刷梱包費 20,300部 ・送料 ポスター300部
	行 事 部	200,000	250,000	50,000	村高芸術鑑賞会支援 100,000 総会・懇親会関係費 (懇親会景品等)
助	成 費	590,000	600,000	10,000	
	生徒会活動補助	290,000	300,000	10,000	全国·北信越大会等出場激励費 生徒会活動支援 200,000
	支部助成費	300,000	300,000	0	支部活動:関東・新潟・関西・新発田・関川・仙台・群馬・中京
積	立 金	300,000	300,000	0	記念事業積立金
雑	費	30,000	30,000	0	振込手数料他
予	備費	7,900,000	7,600,000	△300,000	高校パンフレット助成 他
合	計	12,770,000	12,480,000	△290,000	

全日 $6\ 6\ 6\ 6\ 5\ 5\ 5\ 4\ 4\ 3\ 3\ 3\ 3\ 3\ 3$ 2

12,530,486 - 4,772,698 = 7,757,788

小大曽本塩野滝川間入 高川米森白小伊橋村内田沢栗藤 船山 佐藤林太郎 文勝 義亨秀啓秀夫吾正人平一一二 岡磯 長鈴木 長谷川和喜川 誠也夫 明 小山伊飯田田東島 山花 長谷川 清高橋柳三郎 片岡 泰三 義和無一彦等

物

故

会

員

名

新

若林 久德 故 (旧44) H13.1~H13.8 同窓会長 奨学会理事長

申し上げます。 謹んでご冥福をお祈り 事務局にお知らせいた だいた方が主です。)

定定定 山夜夜 14228 定 関 16 4 定夜 6 3 定昼 制

芳 律 雄 子

会総会、思いを語り合いませんか?

編集委員

瀬賀弘行 圓山文堯

奥村直子 矢部常男

平山澄枝 佐藤さよ子 同窓の訪れ」第68号をお届けします。

旧職員8 8 7 442724222120201818181817151312121111111 9 8

大滝富喜子 渡辺 一弘 小内須 田山貝

小和田輝代志 幸男 佐 佐 伊 田藤 野 藤 村 八本田幡荘沢 全日制

皆飯吉佐大渡佐小内須佐八山川島村藤平邊藤田山貝藤幡賀百合 淳 正広達妙泰晴順健 一準史明雄子蔵子次治誠誠子 村真佐男 恒幸修孝美子治 絋一

信金普通 5,109,655 第四普通 102,749

記

ない。校是を大切にして、輝ける人、光を放てる人 夕陽、草花の力強さ。万古不易なものがそこにある。 と水を吸い、草花は生き生きと来る夏を待っている。 になって欲しい。また、その一助となる同窓会であり 上高校を思う気持ちと、村高健児への想いは変わら もうすぐ、夏。川のせせらぎや風の音、海に沈む 同窓生として、どのように時代が変わろうと、村 風のない、 ちょっと蒸し暑い日。 地面はしっかり

堅忍不抜のさとしありあ、雄壮のこの山河等華柔弱の濁りなく 崖に千歳の松青し海府の海は千仭の海の海は千仭の

五、

シベリア嵐の吹くところ北渺茫の海遠く、平原百里ここにつき



ミ

我らが使命果たしなむ真理を求めたゆみなき真理を求めたゆみなき、豊栄昇る朝日子の

ニ、

栄華に酔はむ時ならず 安逸の夢をむさぼりて 舞台は今や開かれむ

為県立村上高等学校校 作作 詞 曲 歌 楠藤

美 原 恩三 紫 郎朗